

## ベトナム上場企業の投資活動の実証分析

一橋大学 奥田 英信

一橋大学大学院生 ライティフーンニユン

ドイモイ政策の下で進められた積極的な経済改革によって、近年、ベトナム企業は大きな変化を遂げつつある。本論文の目的は、ベトナムを代表する企業であり、企業改革の最終段階に位置付けられるホーチミンおよびハノイ証券取引所上場企業について、その投資行動の特徴を明らかにし、内包されている問題点を検討することである。

2006年から2009年まで4年間のアンバランスドデータを利用した、両証券取引所上場企業の新古典形投資関数の推計結果によれば、(1) 長期負債、特に長期銀行借入れはベトナム上場企業の投資活動を促進する役割を果たしていること、(2) ベトナム上場企業は固定資産が少ないほど投資をより積極的に行うこと、(3) 政府支配企業は他の企業より投資を少なく行うこと、が観察された。

これらの観察結果は、ベトナム上場企業の投資活動は銀行借入への依存度が高く、証券市場での資金調達がまだ弱いことを含意している。これから社債発行や株式発行を通じた投資に必要な資金の調達を促進すべきであるという政策的な含意を示唆している。